

インフルエンザ対策・対応マニュアル

1、インフルエンザが流行しやすい時期

- ・ 11月～3月頃

2、インフルエンザの種類

- ・ Aソ連型
- ・ A香港型
- ・ B型
- ・ C型

※発症数の97%はA型。A型は人だけでなく動物にも感染し変異する。免疫を持たない新しいウイルス「新型ウイルス」が出現し流行しやすい。

3、インフルエンザの症状

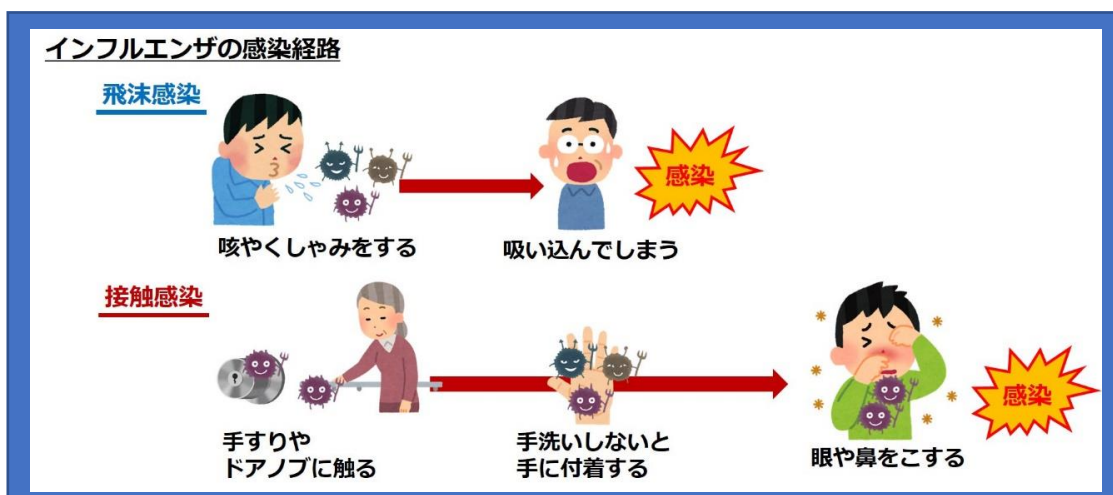
- ・ 38度以上の高熱。
- ・ 頭痛、筋肉や関節の痛み、倦怠感などの全身症状。
- ・ 咳や喉の痛み、鼻水、呼吸が早く苦しい。
- ・ 嘔吐、腹痛、下痢を伴うこともある。

※肺炎や熱性けいれん等の合併症を併発し重症化しやすい。

※高熱が出ていなくてもインフルエンザを発症していることがある。

4、インフルエンザの感染経路

- ・ 飛沫感染（咳やくしゃみによる飛散距離は最大2m）
- ・ 接触感染



5、インフルエンザの予防対策

1) 体調管理

- ・検温と健康チェック（関連症状の有無の確認）を行う。検温結果は業務日誌に記録する。
- ・送迎時に学校関係者から情報収集を行う。
- ・体調不良窓がある場合に、保護者から情報提供が行われるように、連携体制を構築しておく。

2) 手洗い・うがい

- ・外から帰った時、食事おやつの前、調理活動の前中後、トイレ後に手洗い（石鹸使用）、うがいを行う。
- ・アルコール消毒液（エタノール濃度 60%～80%）で手指消毒を行う。

3) 消毒（手指、触れる物）

- ・降所後に、手指で触れる機会が多い場所（トイレの便座、トイレの蓋、洗面台、蛇口、ドアノブ、机など）を0.02%に希釈した消毒液（次亜塩素酸ナトリウム）で消毒する。

4) マスクの着用

- ・インフルエンザの関連症状が出ている場合、マスクを着用する。
- ・咳エチケットは飛散防止を目的に行う。ティッシュを使う場合、その都度廃棄して新しい物を使用する。前腕部または袖で行うように指導し、前腕部で行った場合は手洗いを行う。

5) 環境の管理（温度、湿度、換気）

- ・エアコンを使用して室温20℃～25℃を保つ。
- ・加湿器を使用して湿度50%～70%を保つ。
※50%よりも低く70%よりも高いと、ウイルスが活性化する。
- ・おやつと、昼食の際に5～10分程度の換気を行う。

6) インフルエンザ警報発令時は人ごみへの外出を避ける

- ・インフルエンザ警報などの情報を参照し、人ごみへの外出活動を調節する。

6、予防接種

- ・職員に対し、流行期の前（10月中）にインフルエンザ予防接種を受けさせる。

7、発症者への対応

- ・症状のある児童はマスクを着用させ、他児と部屋を分けて過ごさせる。発症者については面談室で対応を行う。水分補給を促し安静にさせる。
- ・37.5度の発熱、ご家族へ連絡し受診を促す。
- ・合併症として、熱性けいれんが出現した場合、個別の緊急対策シートに基づき対応を行う。
- ・症状のある児童が使用した部屋は換気を行い、アルコール消毒を行う。

8、利用停止期間について

- ・治癒の判断は、医師による判断（治癒証明、学校への登校許可等）をもって行う。
- ・インフルエンザ出席停止期間は「解熱後2日が経過していること」と「発熱後5日が経過していること」で判断される。

